

## 2023年度日本国際保険学校（ISJ）一般コースが開催されました

一般社団法人 日本損害保険協会(会長：新納 啓介)では、コロナ禍により過去3年間は完全オンラインで開催していた日本国際保険学校（ISJ）について、本年度の一般コースは「コロナ後の時代において損保業界に期待される業務品質と専門性の向上」をテーマに対面での開催を4年ぶりに再開しました。

従来は2週間の来日で開催していましたが、本年度は、東アジア11地域24名の参加者を迎えて、先に行われた上級コースと同様、オンライン1週間（11月15日～21日）と対面1週間（11月29日～12月5日）を組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

オンラインでの開講式で、損保協会の坂本仁一常務理事が主催者を代表し挨拶を行い、「自然災害やデジタル技術革新など目まぐるしく変化し、過去の経験・知識では解決困難な課題に直面しており、他地域の参加者との取り組みを共有、意見交換、論議を通じて、地域の業界や保険会社を牽引していただきたい」と期待を寄せました。

対面での開講式では、同協会の大知久一専務理事が主催者を代表して歓迎の挨拶を行い、参加者に対して「自然災害の脅威や世界情勢の変化といった我々を取り巻く環境が刻一刻と変化しており、国民の暮らしや経済活動を支えるべく、変化やニーズを先取りし、社会課題解決への新たなチャレンジを続けることが期待されている」と述べ、環境変化に対応し、お客様からの信頼に応えるためには、業務品質の向上や保険種目別の専門性を備えおくことがますます重要になってきていることを強調しました。

講師各位には、メインテーマに沿った講義を実施いただき、また、参加者の意欲も高く、多くの講義で質の高い質問が数多く寄せられ、また、講師各位に的確な質疑応答を行っていただくことにより、参加者の損害保険の知識を高めることが出来ました。

参加者からは、「地域の異なる立場の参加者が一堂に会することで、互いに学び合い、知識を交換することができた」「日本とISJ地域との保険事業の違い、地域の問題点を理解することができた」との声が寄せられ、短い来日期間ながらも、地域を超えた参加者同士のネットワーク構築と充実した1週間となりました。



最終日の修了式

### 日本国際保険学校（ISJ：Insurance School (non-life) of Japan）

- 国連貿易開発会議（UNCTAD：United Nations Conference on Trade and Development）の勧告および東アジア保険会議（EAIC：East Asian Insurance Congress）の要請を受け、東アジア地域の損保業界に対して行う海外技術援助研修プログラム。
- 1972年に一般コース、1991年に上級コースを開講し、これまでに一般・上級コースでのべ2,200名以上の卒業生を輩出している。